

様式 (7)

報告番号	甲 保 第 49 号 乙 保
論 文 内 容 要 旨	
氏 名	近藤 彩
題 目	Development and Psychometric Testing of the Mental Health Scale for Childrearing Fathers (育児をする父親のメンタルヘルス測定尺度の開発)
<p><b>目的</b></p> <p>わが国では、性別役割分業意識が未だ根強く、母親となった女性の家事・育児負担による育児不安やストレスが、産後うつや子どもへの虐待に繋がっていることが報告されている。この育児負担を軽減するために父親育児が強力に推進されてきたが、仕事と子育てとの両立や妻との関係性に悩む父親の増加が懸念され、父親となった男性の産後のうつが注目されている。抑うつは、パートナーや子どもに及ぼす影響が大きいいため、メンタルヘルスの状況を早期に把握し適切な対処が求められる。そこで本研究では、『育児をする父親のメンタルヘルス測定尺度(MSCF)』の開発を行い、その信頼性・妥当性の検証を行った。本尺度の開発は、育児をしている父親のメンタルヘルスを多面的かつ総合的にアセスメントすることで、父親個人への支援はもちろんのこと、ワークライフバランスや家族の関係性の調整、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けたサポートシステムの構築を検討するための一助になると考える。</p> <p><b>方法</b></p> <p>方法は、プレテストと本調査の2段階で構成されている。文献レビューによって構成された試作尺度を用いて、未就学児をもつ父親98人を対象にプレテストを実施した。プレテストの結果を受けて、『育児をする父親のメンタルヘルス測定尺度(MSCF)』原案を作成し、306名を対象に本調査を実施した。信頼性と妥当性の検証は、<math>\alpha</math>係数の算出、構成概念妥当性の検討、基準関連妥当性・収束的妥当性の検討、確認的因子分析によるモデル適合により検討した。</p> <p><b>結果</b></p> <p>MSCFは、【家庭における心の安寧】、【心身の健康感】、【父親として感じる満足】、【父親としての有意義な生き方】の4因子25項目で構成された。クロンバック <math>\alpha</math> 係数は、0.918であり信頼性が確認できた。妥当性は、探索的因子分析により構成概念妥当性を確認できた。基準関連妥当性・収束的妥当性は、既存尺度と中等度～強い相関が認められた。確認的因子分析によるモデル適合度はGFI=0.828、AGFI=0.792、CFI=0.873、RMSEA=0.078であり、統計学的許容水準を概ね満たしていた。開発したMSCFの信頼性と妥当性を確認することができた。</p> <p><b>結論</b></p> <p>MSCFは、父親の生活全般を捉えたうえで父親のメンタルヘルスを測定するという特徴があり、育児に関連する父親のメンタルヘルスの状態をスクリーニングすることができる。10分程度で回答できる利便性が高い尺度であるため、乳幼児健康診査等での使用が期待でき、面接等を併用することでより多面的かつ総合的にアセスメントすることが可能になる。</p>	